

第12回 小さな展覧会

京都発掘'94



1994.8.13~8.28

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

ご あ い さ つ

京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、1993年度に48件の発掘調査を行いました。今回の展覧会では、そのうち注目された遺跡を12件とりあげ、京都府内の各機関の発掘成果13件と合わせて展示しております。また、平安建都1200年記念コーナーとして「卑弥呼の時代と鏡」展を設けております。

この展覧会の目的は、冒頭で述べましたように、前年度に京都府内で行われた発掘調査の成果や出土遺物を広く一般の方々に紹介し、合わせて埋蔵文化財への理解を深めていただくことにありますが、そのためにも、皆様によりわかりやすく親しみやすい展示を心がけていくつもりであります。

今回の展示にご協力いただいた各関係機関をはじめ、後援をいただいた京都府教育委員会ならびに協賛をいただいた向日市文化資料館に感謝いたします。

1994年 8 月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長 福 山 敏 男

凡 例

- 1 本図録は、1994年 8 月13日～8 月28日の第12回小さな展覧会「京都発掘'94」の展示図録である。
- 2 展示品は、京都府埋蔵文化財調査研究センター及び各機関が主として1993年度に発掘調査を行った遺跡・遺物を対象とした。
- 3 収録した写真は、京都府埋蔵文化財調査研究センター・京都府立山城郷土資料館が撮影したもののほか、次の機関から提供を受けた。(順不同、敬称略)峰山町教育委員会 弥栄町教育委員会 網野町教育委員会 大宮町教育委員会 舞鶴市教育委員会 福知山市教育委員会 園部町教育委員会 京都市埋蔵文化財研究所 向日市埋蔵文化財センター 長岡京市埋蔵文化財センター 大山崎町教育委員会 宇治市教育委員会 城陽市教育委員会 八幡市教育委員会 精華町教育委員会
- 4 資料調査、図録作成、展示品借用に当たっては、上記の写真提供者のほか、各関係機関、個人の方々からご指導、ご協力を受けた。
- 5 本図録は、久保哲正(山城郷土資料館)、小山雅人・田中 彰(写真)・村田照久(京都府埋蔵文化財調査研究センター)が分担して作成し、小山がまとめた。

表紙カット：平安時代の緑釉・灰釉陶器(平安京跡)

裏表紙カット：青龍三年銘鏡(大田南5号墳)

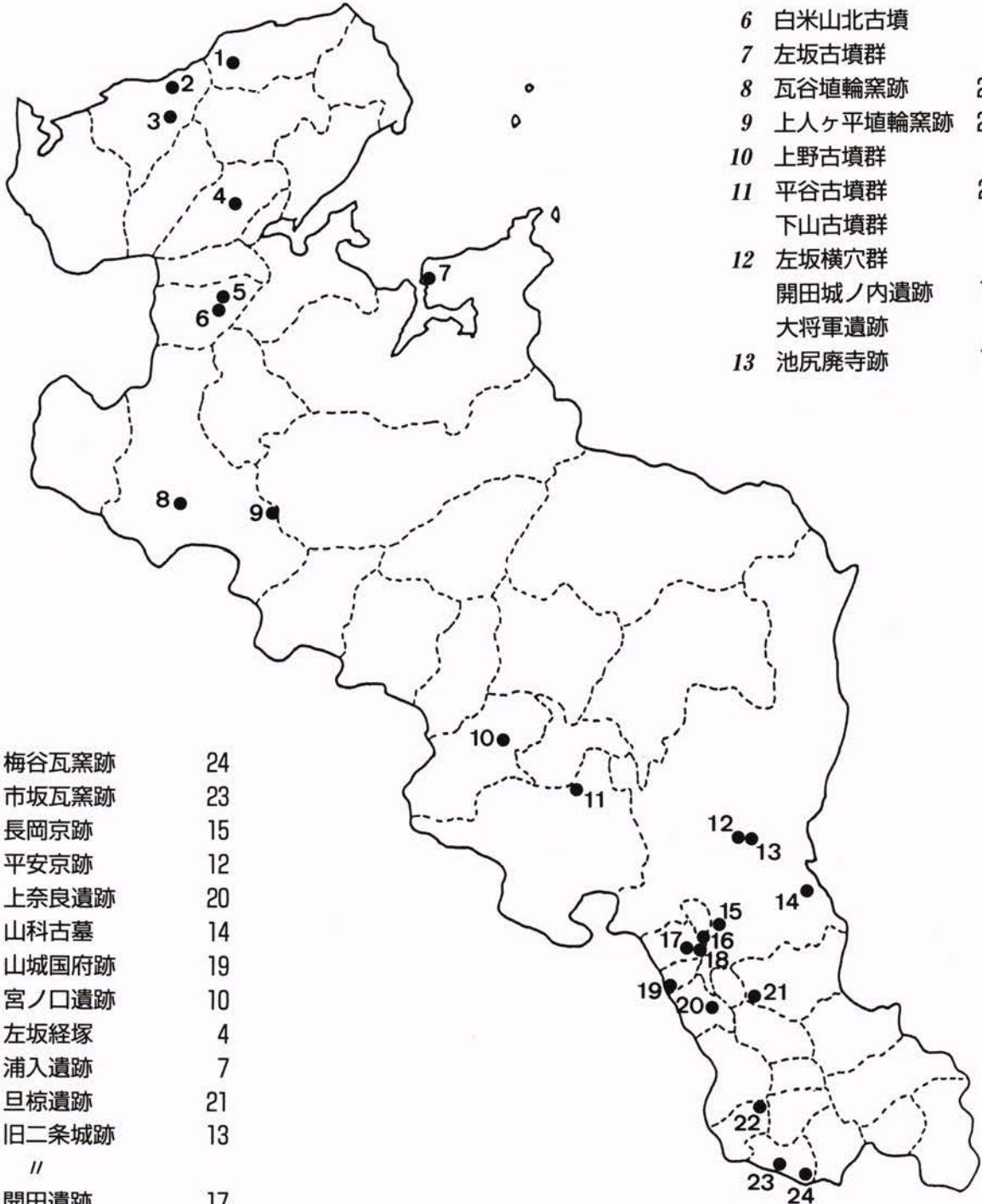
▶梅谷瓦窯跡調査風景



目次

頁 遺跡名 地図番号

1	嗎岡遺跡	5
	十王堂遺跡	3
2	雲宮遺跡	18
3	興・観音寺遺跡	9
4	左坂墳墓群	4
	三坂神社墳墓群	4
5	鴨田遺跡	16
6	白米山北古墳	6
7	左坂古墳群	4
8	瓦谷埴輪窯跡	23
9	上人ヶ平埴輪窯跡	23
10	上野古墳群	1
11	平谷古墳群	22
	下山古墳群	8
12	左坂横穴群	4
	開田城ノ内遺跡	17
	大將軍遺跡	2
13	池尻廃寺跡	11



14	梅谷瓦窯跡	24
15	市坂瓦窯跡	23
16	長岡京跡	15
17	平安京跡	12
18	上奈良遺跡	20
19	山科古墓	14
	山城国府跡	19
	宮ノ口遺跡	10
20	左坂経塚	4
21	浦入遺跡	7
22	旦棕遺跡	21
23	旧二条城跡	13
24	//	
25	開田遺跡	17
26	建都1200年記念展	
	「卑弥呼の時代と鏡」	
31		
32	展示品リスト	

いななきのおか

嗎岡遺跡 (京都府埋蔵文化財調査研究センター)

紀元前6000年
加悦町字後野^{うしろの}

近畿最古の落とし穴^{りょう} 狽^{かやだに}の遺跡

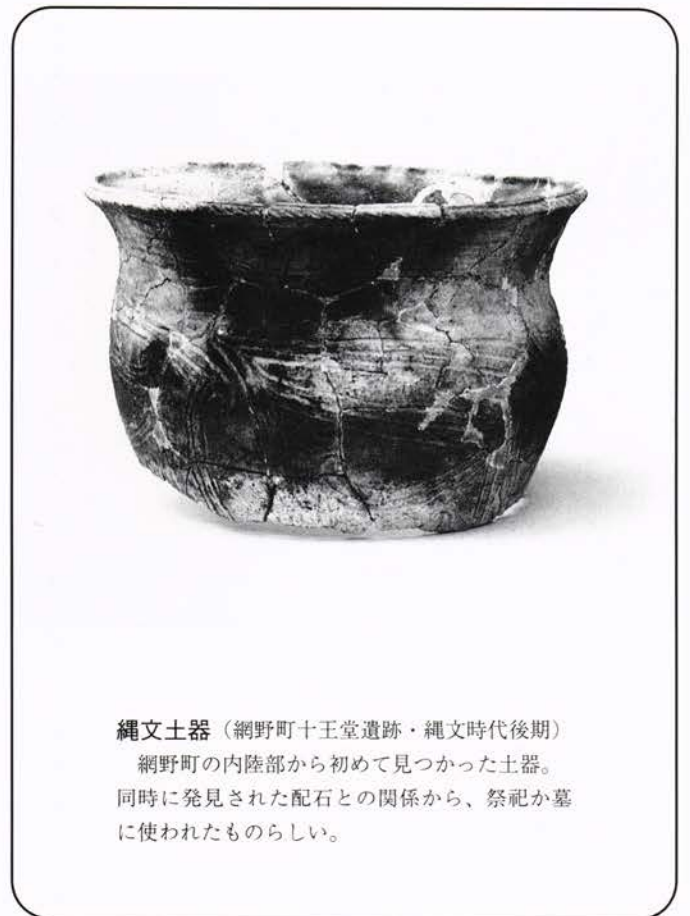
嗎岡遺跡は、野田川の右岸、加悦谷を見下ろす丘陵の先端部にある。京都府でも屈指の遺跡が集中する地域であるが、昨年度注目されたのは、縄文時代でも古い時期の土器の出土である。ここに展示した土器には、文様を刻んだ丸い棒をころがしてつけた文様が見られる。押型文^{おしがたもん}とよばれるもので、縄文時代早期の特徴的な土器である。

昨年度の調査では、狽のための落とし穴と考えられる穴が7か所確認できた。直径1メートルほどで、底の真ん中に杭を立てる小さな穴がある。近畿地方では少なく、今回の例は、近畿では最古の発見例となる。



▲落とし穴の遺構

◀押型文土器の破片



縄文土器 (網野町十王堂遺跡・縄文時代後期)
網野町の内陸部から初めて見つかった土器。
同時に発見された配石との関係から、祭祀か墓
に使われたものらしい。



稲作の開始

長岡京市内の東方、桂川に近い低地に営まれた雲宮遺跡は、京都盆地に最初に稲作が伝わった遺跡として有名である。

雲宮遺跡は、これまでも何度か発掘調査が行われ、ムラを取り巻いていた濠の跡などとともに京都府内でも最古とみられる弥生土器が発見され、最初にコメを作り始めた人々の生活がすこしずつ、明らかになってきている。

今回は、京都で稲作が開始された頃に使われていた石製の剣や、新しい食料であるコメのために区別されて作られた貯蔵用のツボとか煮炊き用のカメなどを展示している。

◀ 弥生時代の石の剣

▼ コメを作り始めたころの土器



おき かのんじ
興・観音寺遺跡 (福知山市教育委員会)

1世紀
 福知山市字興・観音寺

弥生農村のくらし

近畿地方北部最大の河川、由良川の流域には綾部市の青野遺跡、舞鶴市の志高遺跡など有数の弥生時代の集落跡があるが、興・観音寺遺跡もそのひとつ。発掘調査は15年前から7回行われているが、今回はじめて遺跡の中心部に当たった。

今回の調査では、竪穴住居9棟分、墓やごみ捨て用の穴(土坑)、排水路や区画に使われた溝、穀物を保存する高床の倉庫の柱穴などが検出された。多量の土器や石器が出土したが、とりわけ石剣や石棒は当時の祭祀のようすをうかがわせる資料である。由良川中流域に農村が増えはじめた頃の典型的な村である。

穀物をたくわえる壺と、盛りつけやお供えのための高杯と鉢
 煮炊きに用いる甕



調査地(手前の森)右後方に私市円山古墳▼





有力者の墓の華麗な玉類

丹後では昨年度も、ガラス玉を豊富にともなう弥生時代の墓が調査された。左坂墳墓群である。現代ではガラス玉は聞こえが悪いが、弥生時代では当時のハイテクの結晶としてかなりの貴重品であった。

九州北部以外では、弥生の墓に副葬品ふくそうひんがともなうことはほとんどなく、終末近い頃によく増え始める。後期初頭の三坂神社3号墓(一昨年度調査)は、その点で非常に重要である。素環頭鉄刀そかんとうてつとうや立派なヤリガンナ、美しいブルーガラスの管玉くだたまや勾玉まがたまは、この時期九州以外ではきわめて珍しい。丹後の有力者はどのようにしてこれらの宝物を手にいれたのであろうか。



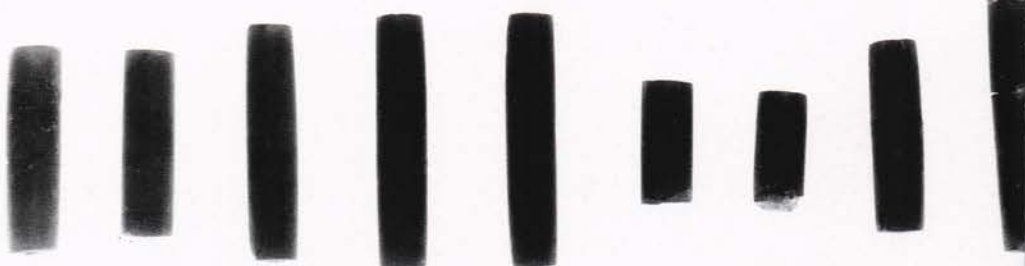
▲ 3号墓第10主体部全景

▲ブルーガラスの勾玉2点(左第10主体・右第2主体)

▼ブルーガラスの管玉は、3号墓第2主体から13点出土した。



▲ 3号墓第10主体部の水晶玉



かもんでん
鴨田遺跡 (向日市埋蔵文化財センター)
 長岡京跡左京第319次

3世紀
 向日市上植野町

ひみこ
卑弥呼の時代の土器

鴨田遺跡は、弥生時代の終わり頃から古墳時代の幕開け頃に栄え始めた集落遺跡である。この遺跡は、古墳時代全体を通じて繁栄した乙訓地域でも指折りの集落跡である。

昨年度の調査では、ムラの中に掘られた溝から焼け焦げた多量の米(炭化米)が、やはり、焼けて炭化した木材や古墳時代初め頃の土器と一緒に出土した。クラに大切に保管してあった米が火災にあって、泣く泣く、溝に投げ捨てたものだろうか。

この頃からの土器は、土師器と呼ばれるようになるが、貯蔵用のツボも煮炊き用のカメも、前の時代の弥生土器に比べ、全体的に薄手で形も均一化されてくる。

▼焼けてしまった米が多量に捨てられていた溝

▶焼け焦げた古墳時代の米



▶卑弥呼の時代に使われていた土器





弥生から古墳へ

弥生時代と古墳時代の間の時期を、この時代の特徴的な土器の型式名から庄内式期と呼ぶことがほぼ定着している。この時代の墓には古墳と呼んでもよいような大きなものがあるが、特に墳丘墓^{ふんきゅうぼ}ということが多い。白米山北古墳もそのひとつで、名称にやや問題もあるが、とりあえずこのように呼んでいる。

副葬品^{ふくそうひん}としては、鉄剣^{てつせん}と鉄鏃^{てつぞく}(やじり)が出土した。供えられた土器の中には、この時代に特徴的な文様が施された搬入土器もある。丹後でも最古の部類に属する白米山古墳^{しらげやまこふん}のすぐ傍に、これに先立って造られた墳丘墓があったことは、興味深い事実である。

▶ 調査地全景

◀ 主体部(埋葬施設)^{しゅたいぶ まいそうしせつ}

▼ 壺と甕^{つば かも}



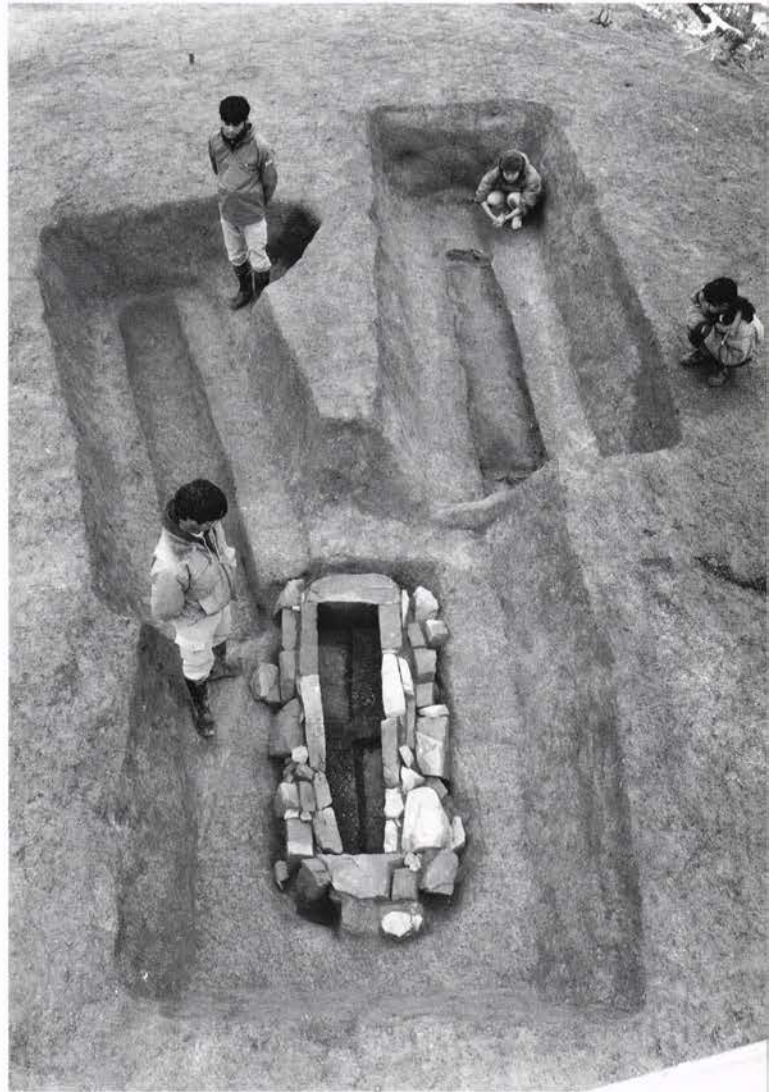
さ さか こ ぶんぐん
左坂古墳群 (京都府埋蔵文化財調査研究センター)

4～5世紀
 大宮町大字^{すき}周枳

北近畿最大級の古墳群

近畿地方の北部には、丘陵全体が墳墓でおおわれた遺跡が多い。弥生時代の後期に始まり、古墳時代の後期に及んでいる。外観では見分けのつかない方形台状墓と呼ばれる墓であるが、弥生時代のもは墳墓と呼び、古墳時代のを小型の方墳などという。110基以上を数える古墳からなる左坂古墳群の今回の調査では、4世紀中頃という古墳時代でも古い例が見つかった。

しかし、さすがに古墳時代になると、いくつか20mクラスの円墳もある。C21号墳はそのひとつで、仕切り板と礫敷きの床というやや特殊な木棺^{もっかん}から、鏡・農工具・玉類が出土した。



▶ B2号墳には石棺^{せっかん}・木棺^{もっかん}あわせて3基の埋葬施設があった。

▼弥生～古墳時代の500年間の墳墓・古墳が累々と連なる左坂の丘陵



かわらだにはに わ かまあと しょうにん が ひら
瓦谷埴輪窯跡・上人ヶ平埴輪窯跡

(京都府埋蔵文化財
 調査研究センター)

5世紀
 木津町大字市坂^{いちさか}



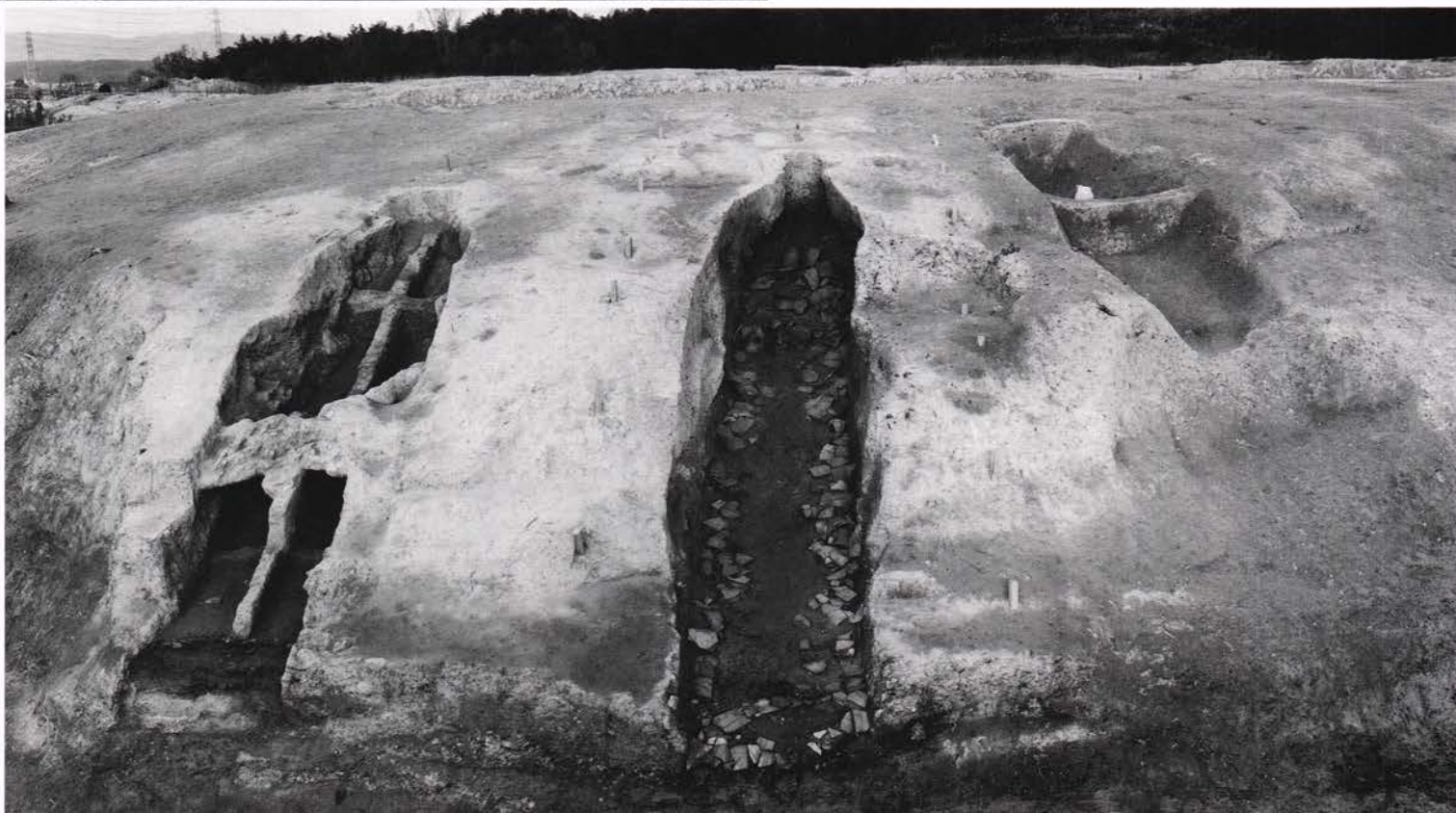
最古級の埴輪窯群

昭和63年、京都府で初めて埴輪を焼いた窯が発見された。上人ヶ平1号窯である。昨年度その2号・3号窯の調査中、隣りの瓦谷遺跡でも3基の埴輪窯が検出され、両者は平行して調査が続けられた。そして従来の野焼きによる埴輪作りに変わって、トンネル状の登り窯^{のぼり}が導入された直後の頃のものであることがわかり、全国的にも最古級の折紙がついた。

特筆できるのは、動物や器材を象^{かたど}った形象埴輪^{けいしやう}が良好な状態で残されていたことである。家・短甲^{たんこう}(よろい)・冑^{かぶと}・靱^{ゆき}(矢筒)・鶏^{にわとり}・馬^{うま}などがあるが、いずれも写実的で細かい作りである。

◀多量の埴輪片が出土した瓦谷2号埴輪窯跡

▼瓦谷埴輪窯跡群全景





▲上人ヶ平埴輪窯跡群と灰原の埴輪片



▲灰原に散乱する馬形埴輪片など



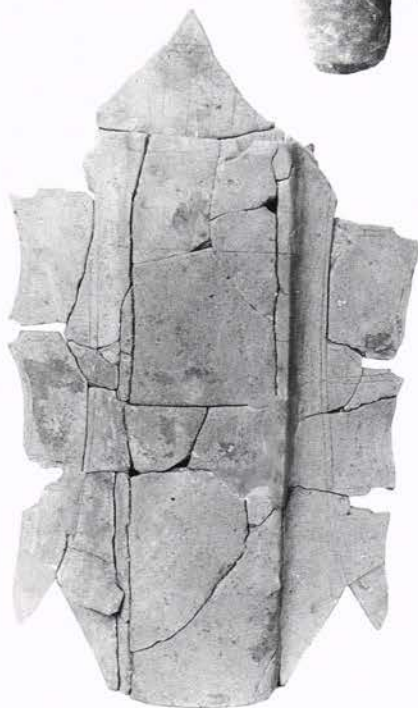
▲家形埴輪



▲馬形埴輪



▲円筒埴輪 (線描きの絵がみえる。)



▲矢を入れて背負う紐をかたどった埴輪



▲かっちゅう甲冑形埴輪のかぶと冑部分



終末期の列石をめぐる方墳

横穴式石室をもつ2基の古墳が調査された。

1号墳は、直径13mの円墳で6世紀後半につくられてから7世紀の前半に最終の追葬が行われるまでの、さまざまな遺物が出土した。刀などの武器類、多様な馬具類、耳環・勾玉や珍しいトンボ玉などの装身具、それに土器類である。

2号墳は、方墳であることと、墳丘に石垣状の列石をめぐるせていることが注目を集めた。京都府では初めてのタイプの古墳である。7世紀の方墳は、大和政権とそれにつながる有力な豪族に限られていたことからすれば、飛鳥の都で寺院の建立が始まる頃の丹後の歴史に新しい光を当てることもできよう。

◀上野1号墳の全景(上)と出土遺物(下)

▼上野2号墳全景

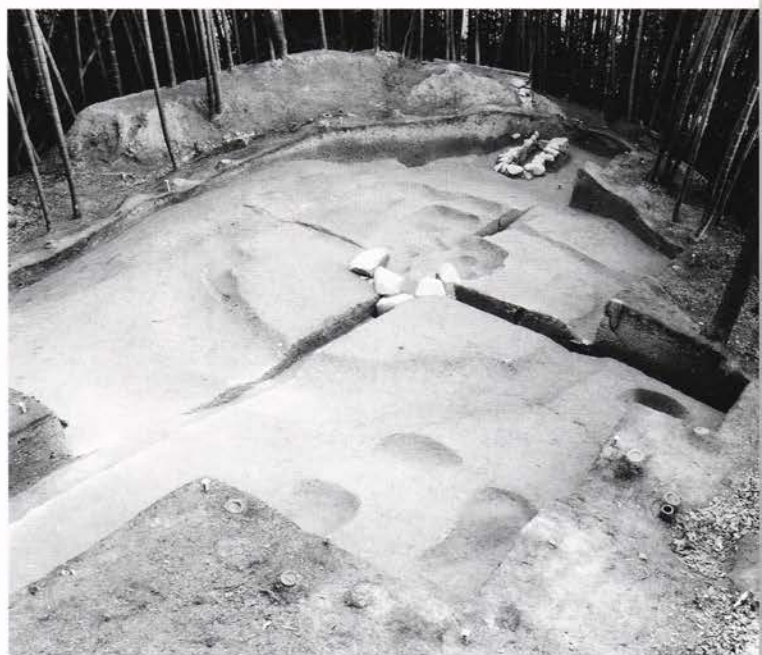


ひらだに
▶平谷4号墳（精華町）

なてあなしき よこあなしき
竪穴式と横穴式

古墳時代も終末を迎える7世紀になると全国で古墳の数は減少し、大きさも小規模なものになる。これは、ヤマト中央政権の命令によるものと考えられている。

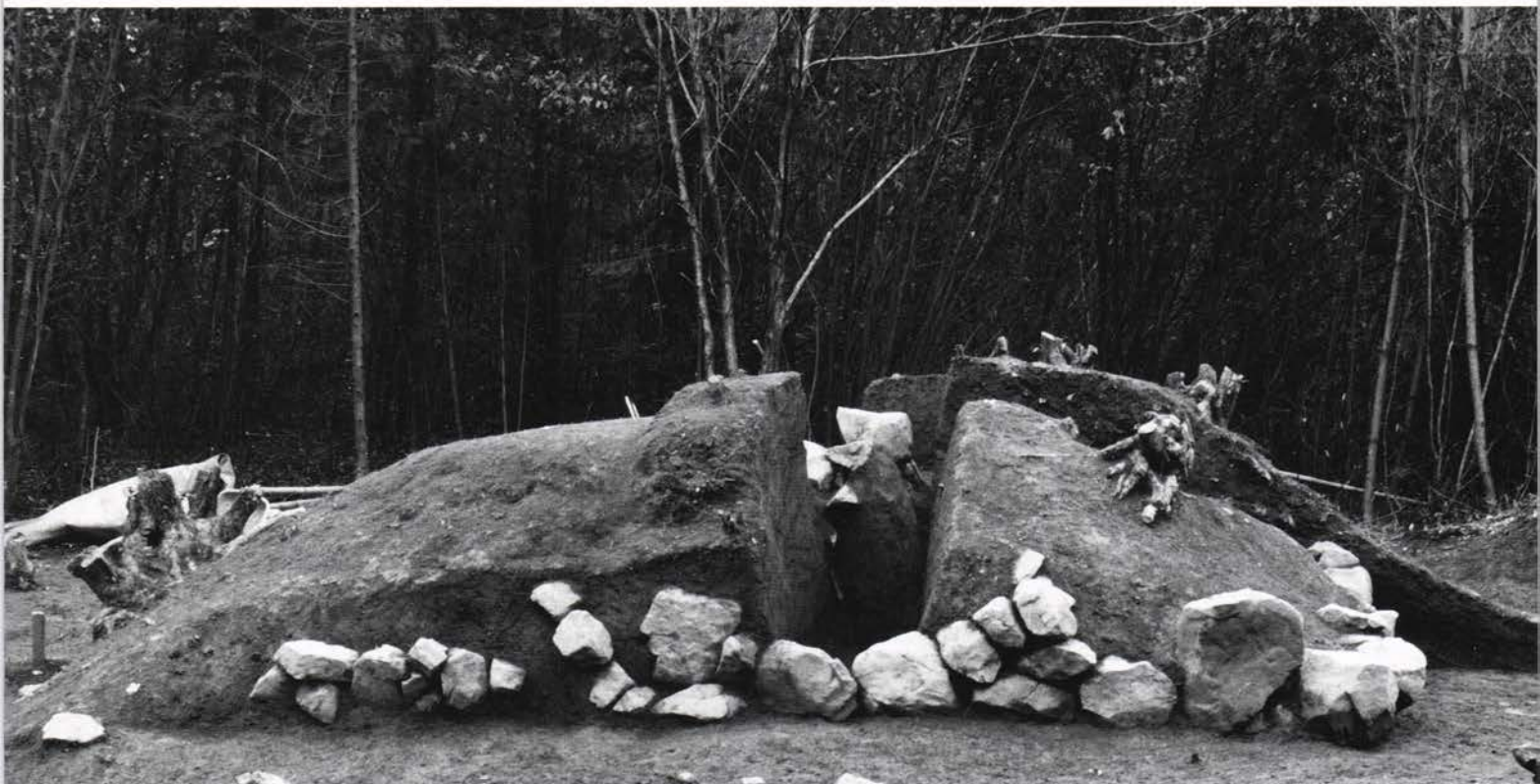
平谷4号墳は、ちょうどその頃に造られた直径約6mほどの古墳である。古墳の中央に築かれた横穴式石室や、古墳のすぐ横に造られた竪穴式石室は、いずれも、その構造は簡略化された小規模なものになっている。



しもやまこふんぐん
▼下山古墳群（福知山市）

石垣の巡る古墳

7世紀代を中心とする総数100基を越える古墳群。その中の1号墳は、一辺約6mの方墳で、古墳周囲を巡る石垣状の列石は特に注目される。近年の発掘調査で石垣状の列石は丹後町上野2号墳（前頁参照）や綾部市山尾古墳で見つまっているが、まだまだ全国的には珍しい。



▼^{ささかおうけつぐん}左坂横穴群（大宮町）火葬骨埋葬のミニ横穴

竹野川中流域右岸の丘陵上には、弥生時代後期から古墳時代にかけての墳墓が多数分布している。丘陵斜面につくられた横穴群は、7世紀末から8世紀中ごろのもので、火葬骨を埋葬していた横穴は、奥行1m、幅90cm、高さ50cmのミニサイズである。



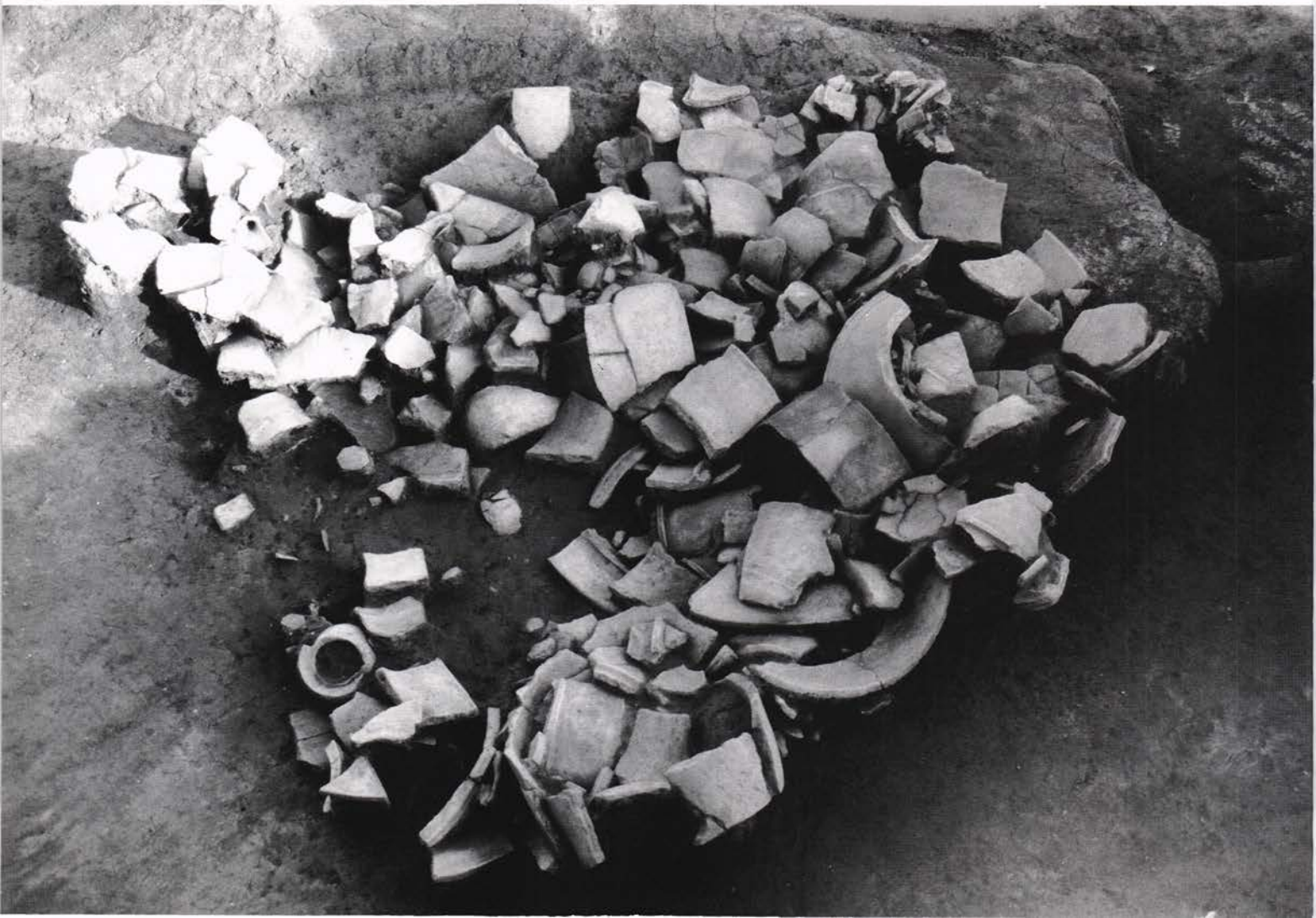
水鳥の土製品

（長岡京市開田城ノ内遺跡、古墳時代中期）
住居跡から出土した鴨^{かも}？を模した土製品

▼^{だいじょうごいせき}大將軍遺跡（網野町）

集落遺跡から埴輪群

福田川下流域の丘陵上に弥生時代から中世に至るまで連綿と営まれた集落跡がある。その一角から円筒埴輪や形象埴輪が土器とともに多数発見された。近くには日本海側最大の前方後円墳である網野銚子山古墳（全長198m）があり、埴輪工房の存在も窺わせる遺跡である。



いけじりはいじあと
池尻廢寺跡 (京都府埋蔵文化財調査研究センター)

8世紀

亀岡市馬路町

はくほう
新発見の白鳳寺院跡

古墳時代が終わり、律令制と仏教文化の時代になると、各地の豪族は寺院の建立に精力を傾けるようになった。7世紀前半の飛鳥寺院の分布が畿内中心で数も限られるのに対し、7世紀後半の白鳳寺院の分布は全国的にひろがり、その数も爆発的に増える。亀岡盆地でも、すでに3か所の白鳳寺院跡が知られていたが、今回盆地北辺部の空白地帯で新たに発見されたのが、池尻廢寺である。

調査した範囲は、寺域の一部であるが、礎石
 たてもの ついじょういこう くかくみぞ
 建物1棟、築地状遺構、数条の区画溝が検出された。出土した軒瓦は、8世紀初頭の藤原
 のきがわら ふじわら
 きゅうしき もとやくしじしき すみが
 宮式ないし本薬師寺式である。土器には墨書
 すずり うるし
 きの文字があるもの、硯に転用したもの、漆が付いたものなどもある。



▲礎石建物跡

▼出土した瓦





のきまるがわら のきひらがわら
▲軒丸瓦・軒平瓦のセット

▼2号窯の調査風景



こうふくじ 興福寺の創建瓦の窯

奈良の興福寺は、南都七大寺のひとつで、藤原氏の氏寺として日本史に大きな足跡を残し、今も観光客で賑わう。この寺は、奈良時代の初めに藤原不比等によって建てられた。梅谷瓦窯跡は、その創建にあたって瓦を製作した遺跡として、付近に散布する瓦によって以前から知られていた。

二度目の発掘調査となった今回、窯本体の構造が明らかになった。7基の窯は、従来の登り窯と新型の平窯とが併存し、技術革新の時期を端的に示している。軒瓦の文様は、前代の白鳳様式を残し、特に軒平瓦は独特のものである。この文様の組合せは、奈良時代前半期に多くの類似品が作られ、興福寺式と通称されている。

いちさか が ようあと
市坂瓦窯跡 (京都府埋蔵文化財調査研究センター)

8世紀
 木津町大字市坂

平城宮の瓦工場

奈良市の北から木津町にまたがる奈良山丘陵
 一帯は、平城の都の宮殿・役所・寺院・邸宅の
 瓦などを製作していた窯業コンビナートであっ
 た。

5年前、天平てんびょうの瓦工場として全国的に知ら
 れた上人ヶ平遺跡しょうにんがひらの南の谷が市坂瓦窯跡であ
 る。上人ヶ平で粘土を取り、瓦の形にし、乾燥
 させたものを、今回確認した市坂の8基の窯で
 焼いたという作業工程が復元できる。つまり、
 上人ヶ平と市坂は両者一体の遺跡なのである。

当然ながら出土した瓦は上人ヶ平遺跡のもの
 と共通する。史書に「大宮改修」「平城宮改作」
 と記された天平宝字年間ほうじの、特に大膳職だいぜんしきの修理
 に使われた瓦である。

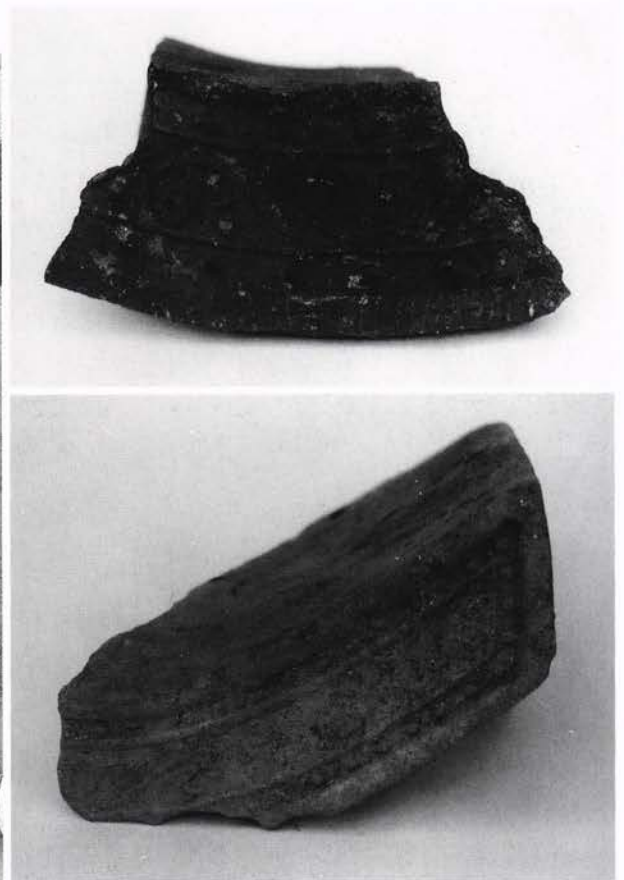


▲上人ヶ平遺跡・平城宮大膳職と共通する軒丸瓦・軒平瓦のセット

▼8号窯の調査風景。手前に炊き口、奥には製品を並べて焼く
 焼成室がある。



▼上人ヶ平では出土していない軒平瓦2点



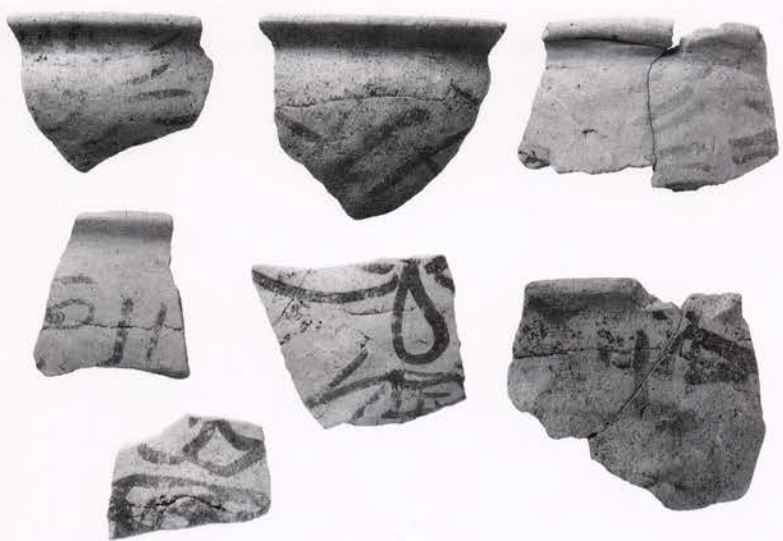
ながおかきょうあと さきょう

長岡京跡左京第304次

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

8世紀

京都市南区久世



◀人形

▼墨で馬具などを表現した土馬



長岡京のいのり

長岡京跡は、京都市・向日市・長岡京市・大山崎町にまたがる、南北5km・東西4kmの広大な遺跡である。現在まで千回を超える調査が行われ、碁盤目ごばんめのような道路網(条坊)、宮殿・役所、貴族の邸宅や一般の住居など大小の建物跡、土器や瓦をはじめとする各種の遺物が出土し、都の生活のありさまが明らかになってきた。

今回は、当時の生活でかなりのウエイトを占めていたと思われる「まじない」の遺物を探り上げた。長岡京時代には川原であった調査地から、土馬やミニチュアの竈かまどや鍋なべ、人形や人の顔を描いた土器などが出土した。とりわけ、墨で馬具を描いた土馬どばは非常に珍しい。

◀祭祀遺物：土馬と竈・鍋(上)、墨書人面土器(下)

▼調査地全景



平安朝初期の高級陶器

調査地は、平安京左京一条二坊十四町にあたり、囚獄司と左獄の獄舎があったところと推定されている。平安時代の遺構は、柱穴や井戸などを検出したが、不明な点が多い。

一方、出土遺物は注目すべきものである。ごく一般的に見られる須恵器や土師器・黒色土器の碗皿類のほかに、各種の高級なやきものが出土した。緑釉の香炉・唾壺・碗、灰釉の壺・碗などの中には、1200年も土の中にあっただとは思えない光沢を残すものがある。

瓦も、平安時代初めのこの地を考えるための重要な資料である。普通の平・丸瓦のほかに軒丸・軒平瓦、さらに緑釉瓦もある。



▲1200年前の土器が出土した井戸

▼緑釉の唾壺(たんつぼ)



▲灰釉の壺



▲緑釉の香炉





▲役所の存在をしめす文字が書かれた土器



▲平安時代頃の土器

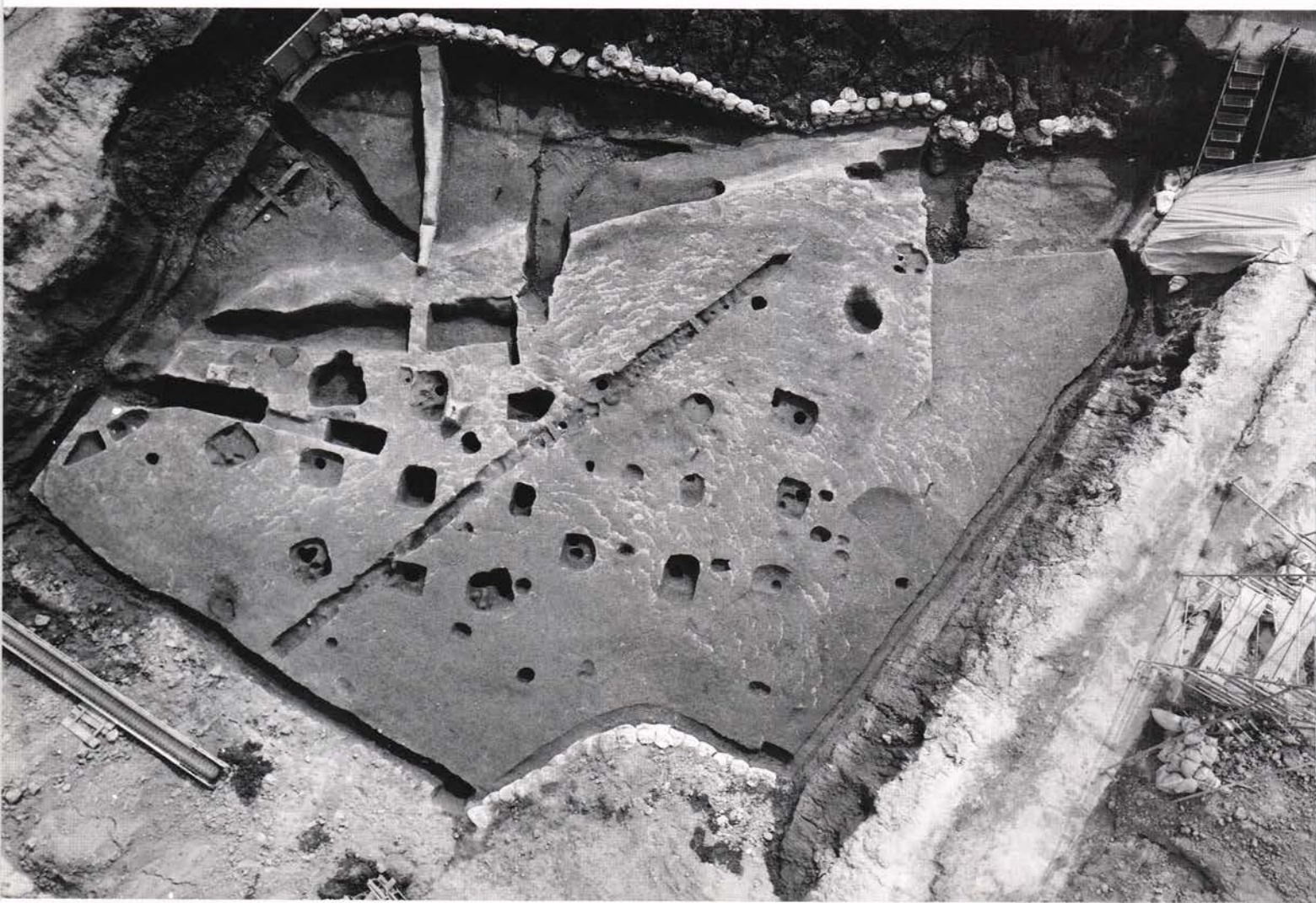
朝廷の直営農場

奈良時代後半から平安時代前半にかけての時期に営まれた八幡市の上奈良遺跡では、倉庫とみられる掘立柱建物2棟や溝が発掘された。

その溝の中から、墨で文字が書かれた土器が、多量に出土した。平安時代を中心にしたこれらの土器の中には、「考所」と読めるものや則天文字と呼ばれる中国・唐代の特殊な文字が書かれたものが混じっていた。

上奈良遺跡の付近は、古くから「御園」と呼ばれていたことや、平安時代の法律の手引書である『延喜式』にも皇室の食料を担当する役所が経営した御園(菜園)の中に「久世郡奈良園」という地名が見られることから、この遺跡が平安京の御園であった可能性が強まってきた。

▼2棟の倉庫、皇室の食料となる野菜などを保管していたのだろうか





◀ ^{やましな}山科古墓（京都市）

平安貴族の墓

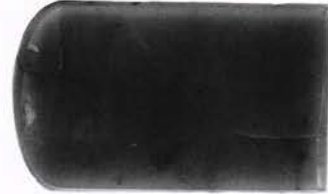
昨年しんねんの夏、京都市のJR山科駅のすぐ南で発見された山科古墓は、墓穴の底に炭を敷き詰め、^{いがい}遺骸を納めた木棺を安置し、そのまわりを守るための外容器もっかく（木槨）を据え、さらにその外側に木炭をめぐらすという非常に丁寧な埋葬方法で造られた木炭木槨墓もくたんもっかくぼと呼ばれるものである。

墓からは、龍の文様が描かれた^{はくどうきょう}白銅鏡の破片や、^{かんしつ}乾漆製品、土師器などが出土しており、この墓に葬られた人の位の高さを窺わせる。

▼ ^{みやのくちいせき}宮ノ口遺跡（園部町）

^{ぐんが}郡衙の跡か？

水田から奈良時代の大規模な建物跡2棟が数多くの土器とともに発見された。一辺約1mの正方形の柱穴が2m間隔で東西に3本、南北に4本、それぞれ2棟分重なるように見つかかり、船井郡衙跡の可能性も考えられている。



高級官僚の帯飾り（大山崎町山城国府跡、平安時代）
大臣級のベルト飾り、勤務中に落したもののか？



さ さかきょうづか
左坂経塚

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

12世紀

大宮町大字周^す栢^き



まっぼう
末法の世の祈り

王朝貴族の世にいささかの陰りが感じられるようになった1052年、藤原頼通が宇治別業を^{べつごう}平等院とした。末法初年である。翌年、阿弥^{あみ}陀堂(鳳凰堂)が完成し、その優美な姿を今に残している。当時の貴族の末法の意識を考古学的に確かめることができるのは、お経を容器に入れて埋納した^{まいのう}経塚と呼ばれる遺跡である。京都府だけでも、現在150か所以上が知られている。

左坂経塚は、古墳群の狭間に設けられた埋経群で、^{きょうてん}経典をおさめた筒に鉄製のものがあって珍しい。また、和鏡や青白磁の合子は、美術史的にも貴重である。なお、多くの^{せんか}銭貨も納められていた。

- ◀ 経塚の検出状況(上)。陶製の外容器の中に経筒があり、その中にお経をおさめた(下)。
- ▼ 一度掘った大きな穴に、なぜかさらに横穴をあけて置かれた^{きょうづつ}経筒



うらにゆういせき
浦入遺跡 (舞鶴市教育委員会)

紀元前4世紀頃～12世紀
 舞鶴市字千歳ちとせ

海辺の村と塩作り

おおうら
 大浦半島の先端近くに位置する浦入地区の試掘調査で、縄文時代から平安時代の終わりまで3000年間ほぼ途絶えなく、生活が営まれていた集落の跡が確認された。

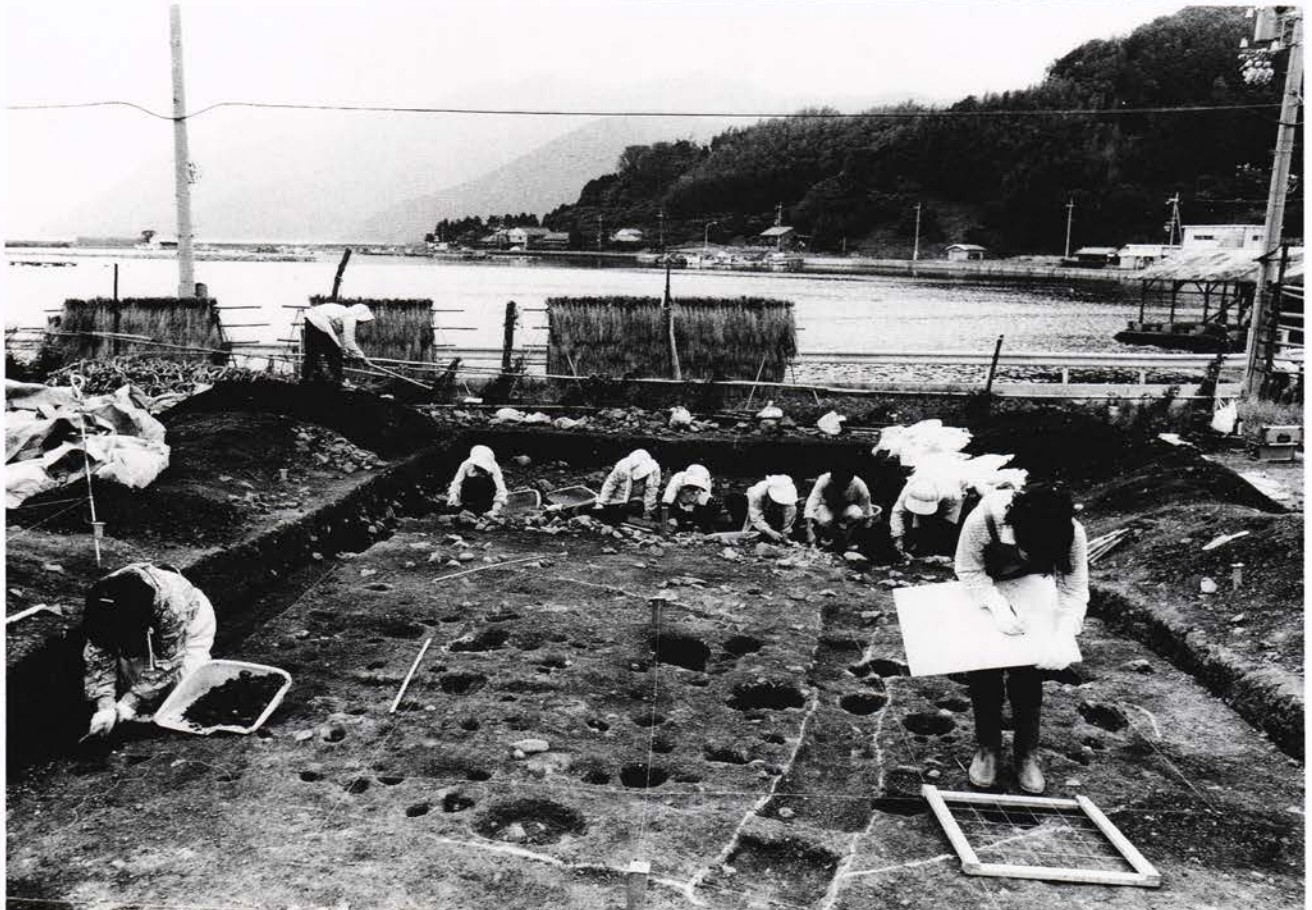
明確な遺構は、検出されていないが、じょうもん縄文土器・やよい弥生土器・はじき土師器・すえき須恵器・こくしょくどき黒色土器など各時代を示す土器のほかに、「まんねんつうほう萬年通寶」「じんぐうかいほう神功開寶」などの奈良時代のどすい銭貨、土錘や石のいかり碇があり、海の生活を物語っている。

浦入遺跡を特徴づけるのは、奈良時代から平安時代にかけての約300年間行われていた塩作りである。この生活必需品を作るための無数のせいえんどき製塩土器が、復元できないほど粉々になって出土している。



▶製塩土器とその支脚がざくざくと

▼海辺の遺跡の調査風景



あさくら
巨椋遺跡 (宇治市教育委員会)

14世紀
宇治市大久保町



▲鉄の羽釜を作るための鋳型

いものし
鋳物師の里

宇治市大久保町の巨椋遺跡は、古墳時代後期から奈良時代にかけての集落遺跡として、近年になってから知られるようになった遺跡である。昨年度の調査においては、こうした古い時代の遺物や遺構とともに、鎌倉時代後半のものともみられる土器類が出土したが、これに混じって、ようかいろ溶解炉や なべ鍋・かま釜の いがた鋳型、てつくず鉄屑のカスなどが多量に発見された。

鉄製品は、たんぞうひん鍛造品(鉄の地金を叩いて製品に仕上げるもの)と ちゅうぞうひん鋳造品(鉄を溶かして鋳型に

流し込む鋳物)に分けられるが、この巨椋遺跡の発見によって、これまであまり知られていなかった鉄の鋳物生産のあり方がわかってきた。

▼鋳物職人達が使っていた土製の釜や皿

▼鉄を溶かす溶解炉の跡



きゅうにじょうじょうあと

旧二条城跡 (京都府埋蔵文化財調査研究センター)

16世紀

京都市上京区

信長の入京

永禄11(1568)年、織田信長が將軍足利義昭を奉じて、京都に入った。翌12年、信長は、將軍の安全のために、^{かでの}勸解由小路室町の新城建設に着手した。京内の石仏などを集めて石垣に使い、^{ほんこくじ}本圀寺から建物、銀閣寺などから庭石を運ぶなど、突貫工事で完成した城が旧二条城である。翌年、義昭は打倒信長を企て、堀を作り備えを固めた。信長軍が旧二条城を囲み、上京を焼き討ちするに及んで、義昭は降伏する。信長は、この城を接収したが、すぐに荒廃した。天正4(1576)年、安土に城を築いた信長は、旧二条城を解体し、門などを安土に移した。

発掘調査では、信長が京中から集めさせた石仏が20体以上出土した。現在、京都府京都文化博物館に展示されている。



▲調査地全景。桃山時代から明治時代にいたる生活のあと。

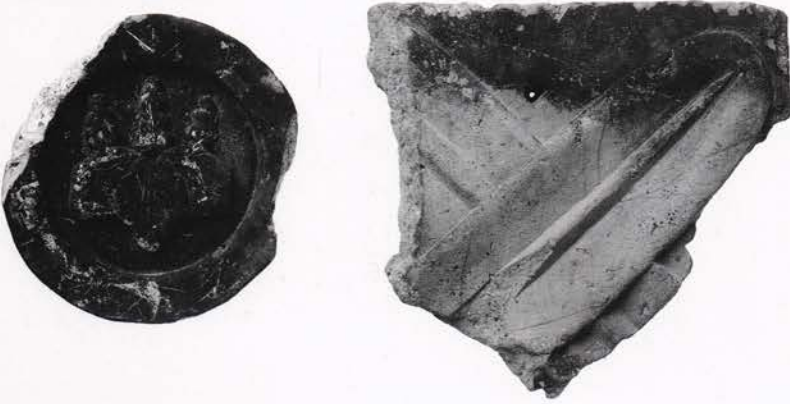
▼424年ぶりに日の目を見た石仏たち。15～16世紀の作。



秀吉の京都

天正14(1586)年2月、豊臣秀吉が内野に聚楽第の建設を始めた。8月には諸大名の屋敷の建設も始まり、京都の町は秀吉の居城の城下町に変身した。天正18(1590)年から翌年にかけての町割り(突抜け建設)と京中屋敷替え(大名屋敷・寺町の建設、突き抜け町への町人住宅の移転)、さらに御土居の建設などで、平安建都後800年にして、京都の町は大改造を受けた。

発掘調査で出土した大量の金箔瓦は、聚楽第城下の大名(浅野長政か)の屋敷に葺かれていたものであろう。また、桃山時代から江戸時代の土器類も出土したが、ここでは秀吉の時代の陶磁器を展示した。



▲ごしちまりもん五七桐文の瓦(左)とちが たかほもん違い鷹羽文瓦(右)

▼秀吉時代の京都の大名屋敷の屋根瓦





▲旧二条城跡出土の陶磁器類 天目茶椀(左上)・唐津椀(左下)・志野向付(右上)・信楽の播り鉢(右下)



▲彩色された独楽(長岡京市開田遺跡、室町時代)
朱と墨で色付けされた同心円文が鮮やかに残る独楽



▲俑(平安京一条二坊出土、中国明代)
唐代の伝統をつたえる陶器の人物像。発掘調査で出土したのは稀有のこと。

ひみこ 卑弥呼の時代と鏡

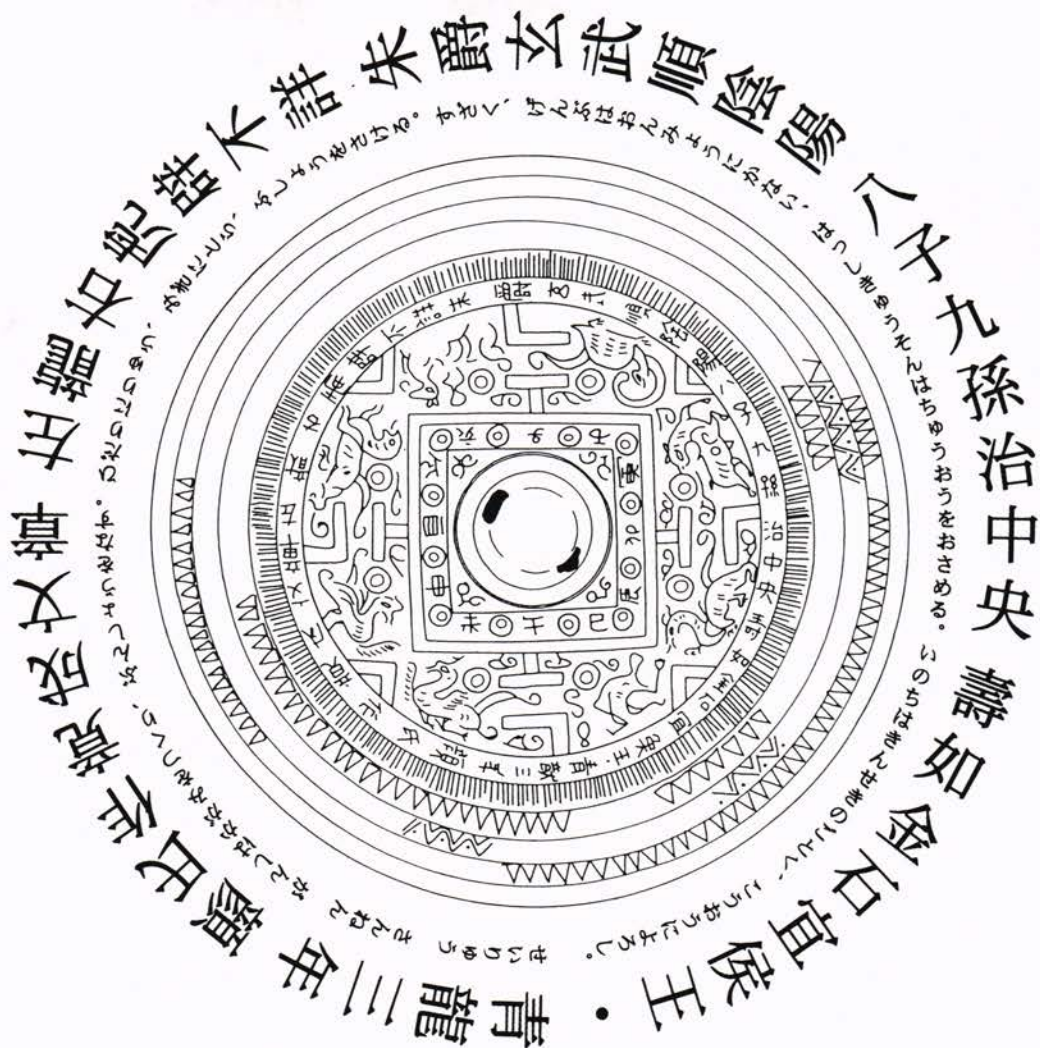
以下の鏡の写真は実物大



方格規矩四神鏡
(弥栄町・峰山町の
大田南5号墳出土)

最近の10年間、京都府では、卑弥呼の時代の鏡にかかわる重要な発見があいついでいる。1984年の芝ヶ原^{しばがはら}11号墳^{さんかくぶらしんじゅうきょう}の三角縁神獸鏡に始まり、1986年の広峯^{ひろみね}15号墳^{けいしよ}の景初四年銘鏡、1990年の大田南^{おおたみなみ}2号墳^{がもんたい}の画文帯環状乳神獸鏡^{かんじょうにゅうしんじゅうきょう}、そして記憶に新しい今年初めの大田南5号墳^{せりゆう}の青龍三年銘鏡^{ほうかくきくしんきょう}(方格規矩四神鏡)に至る。一方、いまだ衰えを見せない邪馬台国論争に関連して、1986年の芝ヶ原古墳と1990年の黒田古墳など、「出現期の古墳」とか「最古級の前方後円墳」と呼ばれる古墳の発見があった。全国で最も多くの三角縁神獸鏡を副葬していたのも、山城町^{つばい}の椿井大塚山古墳^{おおつかやまこふん}であることを思い起こせば、京都府の遺跡は、意外に深く邪馬台国や卑弥呼の問題と関わっているようである(卑弥呼の時代と京都府の遺跡については、年表を試案として31頁に示した)。

この特設コーナーでは、卑弥呼のいた時代の鏡と木製品を展示するが、昨年度の成果として展示した鴨田遺跡^{しょうないしき}の庄内式土器や三坂神社墳墓群の玉類なども併せて御覧頂きたい。



大田南5号墳出土鏡銘文解説

青龍三年、顔氏は鏡を作り、文章を成す。左に龍、右に虎、不詳（不祥）を辟（避）ける。朱爵（朱雀）、玄武は陰陽に順い、八子九孫は中央を治め、壽は金石の如く、侯王に宜し。

展示鏡出土古墳分布図



峰山・弥栄両町にまたがる大田南5号墳から出土した方格規矩四神鏡には、青龍三年(西暦235年)という年号が記されていた。これは卑弥呼が難升米らを帯方郡に派遣した景初三年(239年)の4年前にあたり、この鏡が魏の皇帝の詔書の「銅鏡百枚」として貰ってきた鏡のなかの1枚であった可能性があるとする意見もある。

古墳そのものは18.8m・12.3mの方墳で、高さも90cmにすぎず、丹後でもごく普通の古墳である。埋葬施設は板状の石を箱の形に組んだ組合せ式石棺と呼ばれるものである。鏡以外には鉄刀と土器が出土している。築造年代については、4世紀後半とされるが、もう少し古いと見る説もある。いずれにしても鏡の年代とは100年前後の開きがある。実は、この辺が「卑弥呼の鏡」論争の焦点なのである。



▲ばんりゅうきょう盤龍鏡（福知山市ヌクモ古墳）

今回展示した鏡の中で最も古い2世紀前半の製作と見られる。内区には半肉彫りで龍と虎の一对が表されているので龍虎鏡とも呼ばれる。この鏡が出土した古墳は、5世紀前半の小さな方墳である。



◀そうとうりゅうもんきょう双頭龍文鏡（園部町黒田古墳）

2世紀後半の製作とされる。きわめて類例の少ない鏡である。出土した古墳が3世紀後半の、いわゆる出現期の前方後円墳であり、納められる前に破砕されていると確認されたことは重要である。

三角縁神獸鏡



▲三角縁神獸鏡（城陽市芝ヶ原11号墳）

3体の神像と4体の獣を表す三神四獣鏡である。すでに数百面出土している三角縁神獸鏡についての論議は果てしないが、中国製・国産、いずれにしても、初期ヤマト政権のシンボリックな遺物であり、この鏡を副葬した古墳の主は、当時の日本列島各地のトップクラスの人々であったろう。

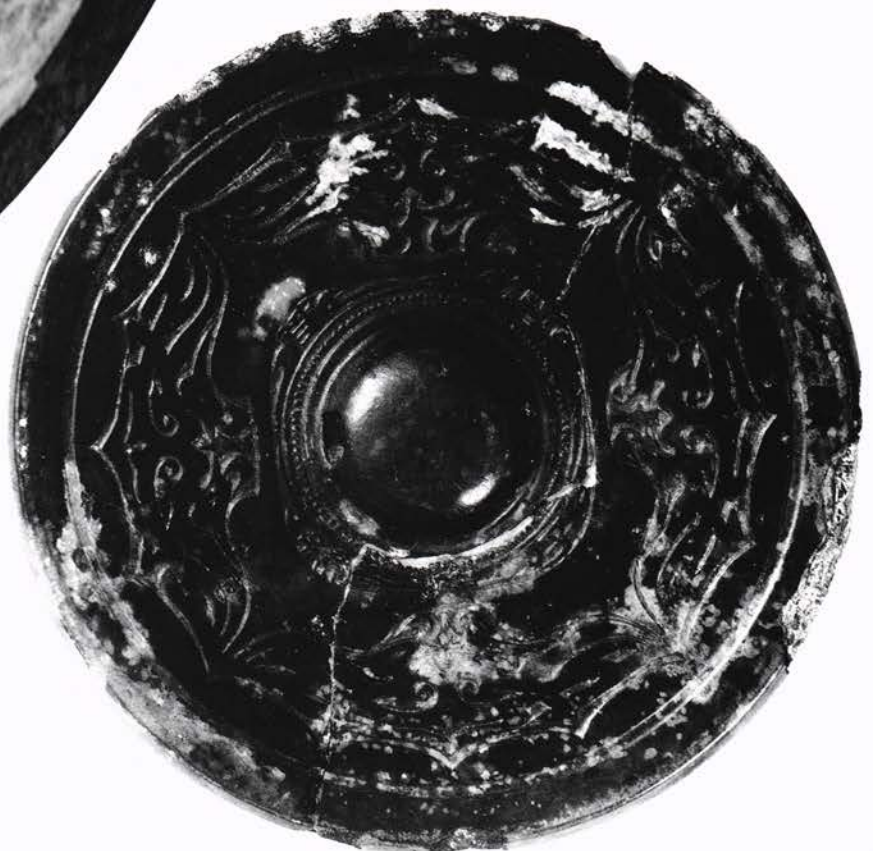


▲飛禽文鏡（城陽市上大谷15号墳）

内区全体に翼を広げた鳥を表す。京都府では綾部市の成山2号墳からも出土している。いずれも、古墳時代初頭か前期でもやや古い時期の小型の方墳である。

▼夔鳳鏡（城陽市上大谷6号墳）

夔鳳は中国の神話的な鳥であるが、鏡には対になった鳥(鳳)の文様が表されているので、中国では単に「鳳鏡」という。飛禽文鏡と同じ頃に編年されている。



が もんたいかんじょうにゅうしんじゅうきょう
◀画文帯環状乳神獣鏡

(弥栄町大田南2号墳)

青龍三年銘鏡の5号墳から北東30数メートルの古墳から出土した鏡。外区の図を表現した部分を画文帯といい、内区の突起を乳にゅうという。さらに、この鏡は中央の紐を通す鈕ちゆうに龍の彫刻が施された珍しい例である。



しゃえんぱんりゅうきょう
▶斜縁盤龍鏡

(福知山市広峯15号墳)

実在しない年号「景初四年」の銘をもつことで有名な鏡。魏の皇帝が景初三(239)年の1月1日に死んで、翌年の1月1日に正始元年と改元されたことを知らなかった、または改元前に作られていたと解釈されている。出土した古墳は、5世紀前半で、中丹地方では最古の前方後円墳である。



	中国の史書	鏡の編年	京都府の主要遺跡	参考図	
一世紀	5 光武帝即位、後漢成立	漢鏡5期	弥生時代中期	●興遺跡(簪) (参考図1) ●興・観音寺遺跡	
	57 倭奴国王が金印を授かる		弥生時代中期	●三坂神社墳墓群 (参考図2) ◎大山墳墓群	
二世紀	107 倭面土国王師升等が後漢に朝貢	漢鏡6期	弥生時代後期	●左坂墳墓群 ●正垣遺跡(琴)	
	147 178 倭国大乱 183 188頃 卑弥呼共立	漢鏡7期第1群	卑弥呼の時代	◎坂野丘遺跡 (参考図3)	
三世紀	220 魏の建国	漢鏡7期第2群	老与の時代	◎馬場遺跡方形周溝墓(参考図4) ◎白米山北古墳 ◎鴨田遺跡 ◎芝ヶ原古墳 (参考図5) ◎園部黒田古墳	
	239 魏に遣使、銅鏡百枚下賜 248 卑弥呼、この年死すか 壹与(台与)共立 266 倭女王、晋に遣使	漢鏡7期第3群	庄内式	◎古殿遺跡(案) (参考図6)	
四世紀	この頃、壹与死すか 男王立つ		古墳時代前期	●広峯15号墳	
400	372 百済の肖古王、七枝刀をおくる 391 倭国、朝鮮半島に出兵		古墳時代中期	器	

卑弥呼の時代と京都府の遺跡 (●は展示関係遺跡、◎はその他の重要遺跡)

展示品リスト

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
嗎岡遺跡	縄文土器片	10	8千年前	京都府埋蔵文化財調査研究センター
十王堂遺跡	縄文土器	1	4千年前	網野町教育委員会
雲宮遺跡	石剣	1	前3世紀	長岡京市教育委員会
	弥生土器	13	〃	京都府埋蔵文化財調査研究センター
興・観音寺遺跡	石剣・石棒・石包丁・石斧・石鏃	9	1世紀	福知山市教育委員会
	弥生土器	4	〃	〃
左坂墳墓群	ガラス勾玉	1	1世紀	大宮町教育委員会
	小玉	3連	〃	〃
三坂神社墳墓群	ヤリガンナ	1	〃	〃
	ガラス勾玉・管玉・水晶玉	26	〃	〃
	小玉	4連	〃	〃
	弥生土器	3	〃	〃
鴨田遺跡	土師器	5	3世紀	向日市埋蔵文化財センター
	炭化米	一括	〃	〃
白米山北古墳	土器	5	3世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	剣・鉄鏃	2	〃	〃
左坂古墳群	振文鏡	1	5世紀	〃
	銅鏃	3	4世紀	〃
	鉄剣・槍・鉄斧	3	4～5世紀	〃
	土師器	7	3～4世紀	〃
瓦谷埴輪窯跡	家形・短甲形・冑形・靴形・盾形埴輪	5	5世紀	〃
上人ヶ平埴輪窯跡	馬形・冑形埴輪	2	〃	〃
	線刻円筒埴輪	1	〃	〃
開田城ノ内遺跡	水鳥形土製品	1	6世紀	長岡京市教育委員会
上野古墳群	鉄刀	3	7世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	雲珠・革金具・轡・辻金具	4	〃	〃
	耳環	5	〃	〃
	勾玉・切子玉・トンボ玉	3	〃	〃
	小玉	一括	〃	〃
	須恵器・土師器	10	〃	〃
池尻廃寺跡	軒丸瓦・軒平瓦	4	8世紀	〃
	線刻瓦	1	〃	〃
	漆付き杯	2	〃	〃
	朱付き杯	1	〃	〃
	墨書土器	1	〃	〃
	転用硯	1	〃	〃
梅谷瓦窯跡	軒丸瓦・軒平瓦	4	8世紀	〃
市坂瓦窯跡	軒丸瓦・軒平瓦	5	〃	〃
長岡京跡	土馬・墨書土馬	2	〃	〃
	竈	3	〃	〃
	鍋	3	〃	〃
	人面土器	2	〃	〃
	人形	1	〃	〃
平安京一条二坊	灰釉陶器	4	9世紀	〃
	緑釉陶器	7	〃	〃
	須恵器・土師器	9	〃	〃

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者	
上奈良遺跡	軒丸瓦・軒平瓦	3	〃	〃	
	緑釉瓦	2	〃	〃	
	風字硯	1	〃	〃	
	俑	1	16世紀	〃	
	墨書土器	6	8～9世紀	八幡市教育委員会	
	須恵器	8	〃	〃	
	緑釉陶器	1	〃	〃	
山城国府跡 左坂経塚	製塩土器	4	〃	〃	
	白玉製石帯	1	9世紀	大山崎町教育委員会	
	経筒（鉄製・銅製）	2	12世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター	
	外容器	4	〃	〃	
	青白磁合子	1	〃	〃	
	和鏡	1	〃	〃	
	銅錢	30	〃	〃	
浦入遺跡	製塩土器	一括	8～12世紀	舞鶴市教育委員会	
	支脚	5	〃	〃	
	須恵器・土師器	3	6～9世紀	〃	
	黒色土器	2	11世紀	〃	
	銭貨	2	8～9世紀	〃	
	碇	1	3世紀	〃	
	縄文土器片	1	前3世紀	〃	
	石斧	2	〃	〃	
	旦棕遺跡	土師器羽釜	2	14世紀	宇治市教育委員会
		土師器皿	4	〃	〃
鋳型片		5	〃	〃	
取り瓶		2	〃	〃	
炉壁		1	〃	〃	
鉞滓		1	〃	〃	
開田遺跡		彩色独楽	1	15～16世紀	長岡京市教育委員会
	同レプリカ	1		〃	
旧二条城跡	金箔瓦	10	16世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター	
	家紋瓦	1	〃	〃	
	陶磁器	4	〃	〃	
	線刻十字漆器	1	〃	〃	

平安建都1200年記念コーナー

ヌクモ古墳	竜虎鏡	1	1世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
黒田古墳	双頭龍文鏡	1	2世紀	園部町教育委員会
上大谷古墳群	飛禽文鏡	1	〃	城陽市教育委員会
	夔鳳鏡	1	〃	〃
大田南5号墳	青龍三年銘方格規矩四神鏡（レプリカ）	1	（3世紀）	弥栄・峰山町教育委員会
	素環頭鉄刀	1	4世紀	〃
	土師器	6	〃	〃
大田南2号墳	画文帯神獸鏡	1	3世紀	弥栄町教育委員会
広峯15号墳	景初四年銘盤龍鏡（レプリカ）	1	（3世紀）	福知山市教育委員会
芝ヶ原11号墳	三角縁銘帯三神四獸鏡	1	（3世紀）	城陽市教育委員会
古殿遺跡	案	1	4世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
正垣遺跡	琴	1	2世紀	〃
興遺跡	簪	1	1世紀	〃



祝祭^{京都}創生¹²⁰⁰年
KYOTO 1200TH CELEBRATION



第12回 小さな展覧会 京都発掘'94 発行日/1994年8月13日

編集・発行/財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒617 向日市寺戸町南垣内40-3 TEL075-933-3877 印刷/三星商事印刷株

主催 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
後援 京都府教育委員会
協賛 向日市文化資料館